

総務教育常任委員会資料

(平成24年4月20日)

【件名】

- 1 「鳥取県の子どもたちの未来のための教育に関する協約」の締結について
(未来戦略課・教育総務課) …………… 1
- 2 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について
(教育環境課・特別支援教育課) …………… 6
- 3 今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針(案)(平成25年度～平成30年度)
に係るパブリックコメントの実施結果について(高等学校課) …………… 9

教育委員会

「鳥取県の子どもたちの未来のための教育に関する協約」の締結について

平成24年4月20日
未 来 戦 略 課
教 育 総 務 課

鳥取県知事と鳥取県教育委員会は、両者が連携協力して子どもたちの未来のための教育振興に取り組んでいくことを目指して、「鳥取県の子どもたちの未来のための教育に関する協約」を締結しました。

1. 協約調印式の概要

- (1) 日 時 3月28日(水) 午後3時～3時30分
(2) 場 所 第四応接室(県庁本庁舎)
(3) 調 印 者 鳥取県知事 平 井 伸 治
鳥取県教育委員会委員長 笠 見 幸 子

2. 協約の概要

- (1) 目 的 鳥取県と鳥取県教育委員会は、本県の将来を担う子どもたちが自らの力で明るい未来を切り拓いていくことができるよう、多様な民意を受け止めつつ、双方が連携協力して教育振興に取り組んでいくことを目的とする。
(2) 協 約 名 鳥取県の子どもたちの未来のための教育に関する協約
(3) 協約の概要(協約書本文は別添1のとおり)
●協約は知事ならびに教育委員長名で締結し、年度単位の内容とした。
●協約は以下に掲げる二つの「柱」で構成。

柱1 子どもたちの未来のための教育振興施策(取組指標含む)

→特に重点的に展開していくことが必要で、知事部局と協力・連携していくことが望ましい教育振興施策について規定。

【規定した教育振興施策】

- ①少人数学級の全面実施を契機とした「学びの質」向上
- ②不登校対策の充実
- ③障がい児童・生徒の教育を充実
- ④子どもたちの文化・芸術活動やスポーツの振興

→施策の達成状況を確認するため、取組指標を設定。

【取組指標の例(個別指標の詳細は別添2のとおり)】

指標内容	H24目標
高等学校における学力向上推進モデル校数	10校(H23は0校)
児童生徒の不登校出現率	全国平均を下回る(H22は小中学校上回る)
近畿高等学校総合文化祭への参加部門率	90%(H23は86%)

柱2 協約執行に向けたPDCAサイクル

→協約の着実な執行に向けたPDCAサイクルについて規定。

【規定した項目】

- ①施策の着実な推進 →随時協議を行いながら施策執行状況や効果を点検しつつ、施策を着実に推進
- ②課題への迅速な対応 →協議の過程で生じた課題に迅速に対応
- ③県民や現場の声の反映 →県民の願いや現場の声を施策に反映
- ④施策の展開 →上記の取組みにより実施した事業の検証を行い、次年度以降のよりよい施策につなげる

別添 1

鳥取県の子どもたちの未来のための教育に関する協約

鳥取県知事と鳥取県教育委員会は、お互い協力して、子どもたちが豊かな未来を切り拓いていくことができるよう、保護者や県民の皆さんと一緒にあって、子どもたちの未来のための教育振興施策に取り組んでいきます。

1 子どもたちの未来のための教育振興施策

鳥取県教育委員会は、平成24年度において次に掲げる子どもたちの未来のための教育振興施策（各施策別の具体的取組は別記）に重点的に取り組み、着実な成果を目指します。

- (1) 少人数学級の全面実施を機に、幼稚園・保育所から高等学校まできめ細かな教育や教育現場の活性化に取り組み、子どもたちの「学びの質」を高めます
- (2) 近年の子どもたちの不登校の状況を踏まえ、未然防止・早期対応・登校支援の各段階に応じた不登校対策に取り組みます
- (3) 特別な支援を必要とする子どもたちへの教育を充実させます
- (4) 子どもたちの文化・芸術活動やスポーツの振興を図り、創造力や体力を養うなど、心身の健やかな育ちを支援します

2 施策の着実な推進

私たちは、随時協議を行いながら施策の進行状況や効果を把握し、施策の着実な推進に努めます。

3 課題への迅速な対応

私たちは、協議の過程で新たな課題が生じた場合は、迅速に対応していきます。

4 県民や現場の声の反映

私たちは、教育に対する県民の願いや想い、現場の声を大切にして施策に反映させます。

5 施策の展開

私たちは、実施した事業の検証を行いながら、次年度以降のよりよい施策につなげていきます。

平成24年3月28日

鳥取県知事

平井伸治

鳥取県教育委員会委員長

笠見幸子

[別記]

平成24年度子どもたちの未来のための教育振興施策

- 1 少人数学級の全面実施を機に、幼稚園・保育所から高等学校まできめ細かな教育や教育現場の活性化に取り組み、子どもたちの「学びの質」を高めます

<主な取組>

- 少人数学級を活かした授業改革に取り組む中学校区や教育研究団体を支援します。
- 2年目を迎えるスクラム教育をさらに充実・発展させ、一貫性のある教育の成果を広げます。
- 高等学校学力向上推進委員会の提言を受け、授業改革に関する取組を行うモデル校を指定し、学力の向上を図ります。
- 地域住民等のボランティアによる子どもたちへの学習支援や生活支援等を、市町村とともに進めます。
- 幼児教育振興プログラムを改訂し、新たな幼児教育の取組や方向性を示します。
- 新たに公立大学となる鳥取環境大学と連携し、子どもたちの外国語に対する関心を高めます。

<取組の指標等>

- ・ 授業改革に取り組む中学校区数：21校区、教育研究団体数：17団体
- ・ 高等学校における学力向上推進モデル校数 10校
- ・ 学校支援ボランティアの実施市町村数 15市町村

- 2 近年の子どもたちの不登校の状況を踏まえ、未然防止・早期対応・登校支援の各段階に応じた不登校対策に取り組めます

<主な取組>

- 未然防止に重点を置きながら、関係機関が連携して未然防止・早期対応・登校支援の各段階に応じたきめ細かな対策を講じます。
- 子どもたちの人間関係づくり、ソーシャルスキルの育成に取り組む学校を支援します。
- 各教育局に社会福祉、精神保健、医療の専門家をスーパーバイザーとして登録し、学校だけでは解決が困難な事例に対して支援・助言を行います。
- 定時制・通信制課程の高等学校において教育相談体制を強化するなど、不登校対策の充実を図ります。

<取組の指標等>

- ・ 児童生徒の不登校出現率 全国平均を下回る

3 特別な支援を必要とする子どもたちへの教育を充実させます

<主な取組>

- 障がいのある子どもたちの成長に合わせ、学校間や関係機関との連携により、一貫した支援を行います。
- 平成24年10月に県立琴の浦高等特別支援学校を設置し、平成25年4月の開校に向けて準備を進めるとともに、県西部地区における病弱の特別支援学校高等部の設置に向けた検討を進めます。
- 障がいのある子どもたちの就学相談・就学先決定に関する体制づくりや通級指導教室拡充に向けた整備等について、ワーキンググループによる検討を行います。
- 障がいのある生徒の職業教育の充実を図るとともに、企業等の協力を得ながら就労機会の拡大を図り、就職率の向上に努めます。

<取組の指標等>

- ・ 中学校から高等学校への個別の教育支援計画(*)の引継率 50%
*特別な支援を必要とする子どもに一貫した支援を行うために作成するもの
- ・ 特別支援学校高等部の就職希望者の就職率 80%以上

4 子どもたちの文化・芸術活動やスポーツの振興を図り、創造力や体力を養うなど、心身の健やかな育ちを支援します

<主な取組>

- 創造的な取組を行っている専門家を招き、学校における文化・芸術活動を支援します。
- 高等学校等の文化部活動の充実を図り、平成27年度の近畿高等学校総合文化祭鳥取大会開催に向けた支援を行います。
- 安全・安心な学校給食の提供と郷土を大切にすることを育むために、学校給食用食材の県産品利用に努めます。
- 全国体力・運動能力調査などの結果を踏まえ、子どもたちの体力の向上を進めます。
- 体育専科教員をモデル的に配置し、主体的に運動に取り組む子どもを育成します。
- ジュニア期の一貫した指導体制をつくり、共通プログラムに基づいて合同練習や指導者研修会を開催します。

<取組の指標等>

- ・ 近畿高等学校総合文化祭への参加部門率 90%
- ・ 学校給食用食材の県産品利用率 60%以上で向上を図る
- ・ 児童生徒の体力調査結果 親世代(S53~57)の平均値に近づける

別添 2

「鳥取県の子どものための未来のための教育に関する協約」に位置づけられた取組指標

取組の指標	指標の内容(意味)	H24目標数値	現状数値	参考数値 (全国数値等)	備考		
授業改革に取り組む中学校区数	【H24新規事業】 「少人数学級を活かす学びと指導の創造事業」に取り組む中学校区数。	21 校区	0 校区 (H23)	—			
授業改革に取り組む教育研究団体数	【H24新規事業】 「少人数学級を活かす学びと指導の創造事業」に取り組む教育研究団体数。	17 団体	0 団体 (H23)	—			
高等学校における学力向上推進モデル校数	【H24新規事業】 平成23年度の高等学校学力向上推進委員会が出された提言を踏まえ、学力向上に向けた具体的な取組を行う学校を指定する。	10 校	0 校 (H23)	—			
学校支援ボランティアの実施市町村数	「地域で育む学校支援ボランティア事業」及び「学校支援地域本部事業」に取り組む市町村(学校組合を含む)数であり、さらなる上積みを目指す。	15 市町村	12 市町村 (H23)	—	H23実施学校数109校 (小76校、中32校、特支1校)		
児童生徒の不登校出現率	児童生徒100人当たりの不登校者数比率であり、現在、小・中学校が全国平均値を上回る状況。	全国平均を下回る	鳥取県(H22)		全国(H22)		
			小学校	0.33%	0.32%		
			中学校	3.14%	2.74%		
			高等学校	1.61%	1.84%		
中学校から高等学校への個別の教育支援計画の引継率	発達障がい等のある特別支援を必要とする生徒数は年々増加しているが、学校間での必要な個人伝達が十分になされるとは言えない。生徒の指導、支援の充実のため、学校や関係機関、保護者が連携して個別の教育支援計画(*)を作成するとともに、必要な情報の円滑な引継を進める。 (*)特別な支援を必要とする子どもに一貫した支援を行うために作成するもの	50%	47.3% (H23)	—			
特別支援学校高等部の就職希望者の就職率	特別支援学校卒業生の就職先の確保は困難な状況であり、就職率の向上に努めていくことが必要。特別支援学校の生徒は、障がい等により就職を希望しない生徒もいることから、就職を希望する生徒を対象とした就職率を指標としている。	80%以上	82.9% (H22)	同様な全国数値はなし	障害のある生徒の就職率は、生徒の個別の状況などにより、年により変動するため、指標を80%以上とした。 <参考> H20:71.4% H21:73.9%		
近畿高等学校総合文化祭への参加部門率	平成27年度近畿高等学校総合文化祭鳥取大会開催に向け、文化部活動を活性化させ、全国や近畿、中国ブロックの大会に出場できる文化部を増やす。	90%	86% (H23)	—			
学校給食用食材の県産品利用率	児童生徒の健全な心身の成長のため、学校給食について、安心安全な食材の提供を目指す。既に60%以上を達成しているが、さらなる上積みを目指す。	60%以上で向上を図る	62% (H22)	—			
児童生徒の体力調査結果	児童生徒の体力は全国的と比較すると概ね上回っているものの、親世代(S53~57)と比較すると低い状況にあることから、子どもの体力向上を目指す。	親世代(S53~57)の平均値に近づける	現在の児童生徒(H22)		親世代		
			50m走	男子	9.36秒		9.05秒
				女子	9.57秒		9.26秒
				男子	7.93秒		7.86秒
				女子	8.83秒		8.65秒
			ボール投げ	男子	26.0m		31.0m
				女子	15.4m		17.6m
男子	20.9m	22.3m					
男子	13.4m	14.5m					

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

平成24年4月20日
教育環境課
特別支援教育課

【新規分】

工 事 名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工 期	契約年月日	摘 要
県立鳥取商業高等学校特別教室棟耐震改修工事（建築）	鳥取市湖山町北二丁目	田中工業株式会社	90,405,000円 (予定価格 100,107,000円)	平成24年 3月 9日～ 平成24年11月15日	平成24年3月 9日	
県立鳥取工業高等学校管理棟耐震改修工事（建築）	鳥取市生山	株式会社田中建設	177,450,000円 (予定価格 189,510,300円)	平成24年 3月16日～ 平成24年11月30日	平成24年3月16日	
県立鳥取緑風高等学校特別教室棟耐震改修工事（建築）	鳥取市湖山町南三丁目	株式会社ジューケン	103,845,000円 (予定価格 115,190,250円)	平成24年 3月23日～ 平成24年10月15日	平成24年3月23日	
県立倉吉西高等学校教室棟耐震改修工事（建築）	倉吉市秋喜	株式会社伊藤建設	139,650,000円 (予定価格 147,233,100円)	平成24年 3月19日～ 平成24年12月25日	平成24年3月19日	
県立米子南高等学校管理教室棟耐震改修工事（建築）	米子市長砂町	有限会社松本組	207,900,000円 (予定価格 225,267,000円)	平成24年 3月13日～ 平成24年10月30日	平成24年3月12日	
県立米子白鳳高等学校管理特別教室棟耐震改修工事（建築）	米子市淀江町福岡	美保テクノス株式会社	200,550,000円 (予定価格 212,014,950円)	平成24年 3月24日～ 平成24年11月30日	平成24年3月23日	
県立境高等学校管理特別教室棟耐震改修工事（建築）	境港市上道町	境港土建株式会社	102,585,000円 (予定価格 113,524,950円)	平成24年 3月16日～ 平成24年10月10日	平成24年3月15日	
県立境港総合技術高等学校管理・特別教室棟耐震改修工事（建築）	境港市竹内町	株式会社リンクス	168,000,000円 (予定価格 175,612,500円)	平成24年 3月23日～ 平成24年11月30日	平成24年3月22日	
県立米子工業高等学校改築工事（部室棟建築）	米子市博労町四丁目	株式会社フィディア	95,340,000円 (予定価格 102,612,300円)	平成24年 3月30日～ 平成24年 8月15日	平成24年3月29日	

工 事 名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工 期	契約年月日	摘 要
県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事（建築第一工区）	東伯郡琴浦町 赤碕	有限会社酒井建設	199,500,000円 (予定価格 211,692,600円)	平成24年 3月 9日～ 平成25年 1月31日	平成24年3月 9日	
県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事（建築第二工区）	東伯郡琴浦町 赤碕	県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事（建築第二工区） 高野組・共栄組 特定建設工事共同企業体	310,800,000円 (予定価格 330,820,350円)	平成24年 3月23日～ 平成25年 1月31日	平成24年3月22日	
県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事（建築第三工区）	東伯郡琴浦町 赤碕	有限会社石賀工務店	132,300,000円 (予定価格 142,373,700円)	平成24年 3月13日～ 平成25年 1月31日	平成24年3月13日	
県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事（建築第五工区）	東伯郡琴浦町 赤碕	美保テクノス株式会社	182,490,000円 (予定価格 201,550,650円)	平成24年 3月23日～ 平成25年 1月31日	平成24年3月22日	
県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事（電気設備）	東伯郡琴浦町 赤碕	県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事（電気設備） 中電工・エナテクス 特定建設工事共同企業体	165,900,000円 (予定価格 172,036,200円)	平成24年 3月15日～ 平成25年 7月31日	平成24年3月14日	
県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事（機械設備）	東伯郡琴浦町 赤碕	県立高等特別支援学校教室棟 新築他工事（機械設備） 大和設備倉吉・クラ エー特定建設工事共同企業体	208,110,000円 (予定価格 216,164,550円)	平成24年 3月15日～ 平成25年 7月31日	平成24年3月14日	
県立高等特別支援学校寄宿舍 新築工事（建築）	東伯郡琴浦町 赤碕	県立高等特別支援学校寄宿舍 新築工事（建築） 馬野・クラエー特定建設工 事共同企業体	346,500,000円 (予定価格 376,505,850円)	平成24年 3月 9日～ 平成25年 1月31日	平成24年3月 8日	

【変更分】

工 事 名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工 期	契約年月日	摘 要
県立米子養護学校小学部棟新築工事（建築）	米子市蚊屋	株式会社平田組	契約金額 238,350,000円を 241,990,350円 (3,640,350円増 額)に改める	平成23年 7月 8日～ 平成24年 3月15日 (変更前:平成24年 3月10日まで)	平成24年3月 9日 (第1回変更)	(変更理由) グレーチング及び流し台の仕様変更等を行ったため。
県立米子養護学校小学部棟新築工事（建築）	米子市蚊屋	株式会社平田組	契約金額 241,990,350円を 244,534,500円 (2,544,150円増 額)に改める	平成23年 7月 8日～ 平成24年 3月15日 (変更なし)	平成24年3月14日 (第2回変更)	(変更理由) 廊下仕上げの仕様変更等を行ったため。

今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（案）（平成25年度～平成30年度）に係るパブリックコメントの実施結果について

平成24年4月20日
高等学校課

「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（案）（平成25年度～平成30年度）」について実施したパブリックコメントの概要は、以下のとおりでした。

1 パブリックコメントの実施状況

(1) 応募期間：平成24年2月27日（月）～平成24年3月23日（金） 約1ヶ月

(2) 意見聴取内容

①生徒減への対応 ②特色ある学科・コースの編成 ③地域と連携した教育の推進

(3) 応募状況

○応募人数（34名／電子メール：26名、ファクシミリ：7名、郵送：1名）

<居住地別>鳥取市：4名、米子市：10名、倉吉市：2名、八頭町：1名、湯梨浜町：1名、琴浦町：1名、大山町：2名、日野町：1名、日南町：7名、不明：5名

<年代別>30代：4名、40代：11名、50代：11名、60代：4名、不明：4名

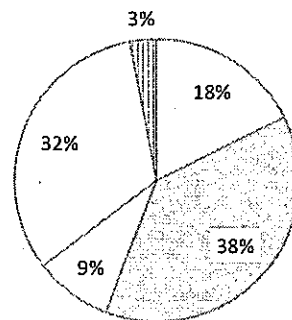
2 応募のあった意見の概要

①生徒減への対応

<アンケート結果>

生徒減への対応は、学級定員減ではなく8学級程度の学級減で対応すること

賛成	6名
どちらかといえば賛成	13名
どちらかといえば反対	3名
反対	11名
未回答	1名



□ 賛成
□ どちらかといえば賛成
□ どちらかといえば反対
□ 反対
□ 未回答

◆「賛成」、「どちらかといえば賛成」を選んだ理由・主な意見

- 学校数を減じてはならない。特に旧郡部の学校は教育の機会均等を図るためにも絶対に残すべき。
- 生徒減に対しては学級数を減らすのはやむを得ないが、中山間地では学校の存続ができなくなる。地域や学校等の意見を聞いて対応してほしい。
- 生徒数が増加するとは予想できないので、いずれ学級減でしのぎ切れない時期が来ると考えるが、その前に「地域と連携した教育の推進」を積極的に行い、合理化を進めることが大切。

◆「反対」、「どちらかといえば反対」を選んだ理由・主な意見

- 学級減ではなく学級定数減で対応すべき。生徒減少期をより細かい教育環境づくりのため、教職員一人当たりの生徒数を減らし、個々の生徒に関われる時間確保をしていくべき。
- 日野高校などのように、既に子どもの数が減っているところは、1学級の定員数を20名程度にしないと学校自体が存続しない。どんなに小さくなくても、学校は残す必要がある。学校がなくなれば、地域も衰退する。

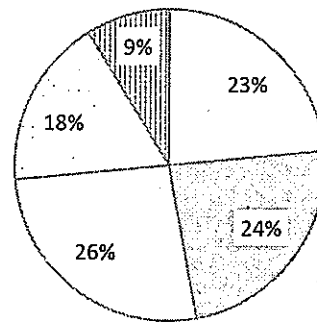
②特色ある学科・コースの編成

環境エネルギーの分野

<アンケート結果>

スマートグリッド社会に対応できる電気、制御等の知識を持った人材を育成する学科等の編成

賛	成	： 8名
どちらかといえば賛	成	： 8名
どちらかといえば反	対	： 9名
反	対	： 6名
未	回	答： 3名



□ 賛成
 □ どちらかといえば賛成
 □ どちらかといえば反対
 □ 反対
 □ 未回答

◆ 「賛成」、「どちらかといえば賛成」を選んだ理由・主な意見

- 大震災等の影響もあり、エネルギー問題に対して全国的に関心が高まっている中、重点的に課題解決が急がれる分野。鳥取県を再生可能エネルギーの先進県とするため是非実現して欲しい。
- IT社会であること、また昨年のも東日本大震災が起きたことで、電気の使い方や大切さについて見直す必要があると思うので、専門的知識を持った人材を増やすことは必要。

◆ 「反対」、「どちらかといえば反対」を選んだ理由・主な意見

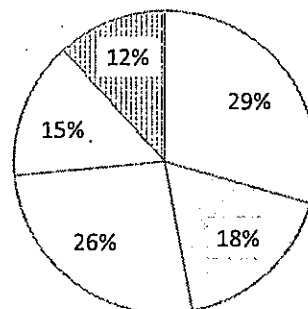
- この分野は、工業の基礎ができていればすべて解決する。特定の分野が注目されているから強化するのではなく、様々な分野に対応できる基本的な部分を十分理解した生徒を育成すべき。
- 中等教育では特色のある学科等を設置したところで施設設備などに限界があり、中途半端なものにしかならないのは目に見えている。多様な進路に対応する普通科高校を増やすべき。

福祉の分野

<アンケート結果>

幼児、老人、障がい者などを対象とした幅広く福祉について学ぶような学科等の編成

賛	成	： 10名
どちらかといえば賛	成	： 6名
どちらかといえば反	対	： 9名
反	対	： 5名
未	回	答： 4名



□ 賛成
 □ どちらかといえば賛成
 □ どちらかといえば反対
 □ 反対
 □ 未回答

◆ 「賛成」、「どちらかといえば賛成」を選んだ理由・主な意見

- 高校で資格が取ればベストであるが、実習時間等の問題もあり、難しい場合は、上級学校につながる学科・コースを目指すべき。
- 安心して暮らせる福祉社会の構築は、少子高齢化が加速的に進行する日本において急務な課題である。今の時代に不可欠であり、最も研究が必要とされる分野である。

◆ 「反対」、「どちらかといえば反対」を選んだ理由・主な意見

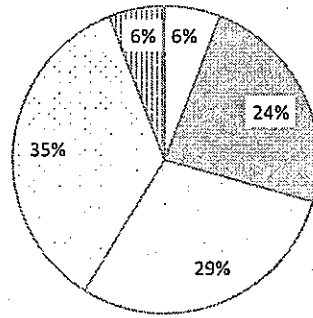
- 中学校卒業段階では、具体的な進路目標が明確ではない生徒が多く、専門的な学科等を増やしても、生徒が入学後なかなか適応できないのでは。
- 高校教育で介護などの資格を取得すること、また15歳の段階で将来の職業を決めることは無理がある。福祉ではなく人を大切にする事の大切さを中心に学ぶということであれば、将来福祉の方面に進む人もそうでない人もいいと思う。その「程度」の福祉の学科であれば賛成。

文化芸術の分野

<アンケート結果>

まんがを含むメディア芸術などの文化芸術分野を学ぶような学科等の編成

賛成：2名
 どちらかといえば賛成：8名
 どちらかといえば反対：10名
 反対：12名
 未回答：2名



□ 賛成
 ■ どちらかといえば賛成
 □ どちらかといえば反対
 □ 反対
 ■ 未回答

◆「賛成」、「どちらかといえば賛成」を選んだ理由・主な意見

- 将来漫画家になりたい、アニメ業界に関わる仕事に就きたいと夢みる人は、クラスに必ずやいるのではないかと感じる。夢でなくチャンスを与えてくれそうで、とても魅力のある学科だと感じる。
- 古くからの伝統を受け継いでいくことの大切さを考えたり、新たなアニメーション技術が増えていく中での取り込みなど、芸術や文化に対する関心は高くなっていると思う。

◆「反対」、「どちらかといえば反対」を選んだ理由・主な意見

- 高校では普通教育を大切に。普通教育の中で、芸術分野やアニメ分野を選択できる（将来の職業としてではなく、あくまでも一般教養として）科目をつくれればいい。
- 全体のカリキュラムの中に一部として組み込むのはいいと思うが、中心におくのは反対。この分野の人材を育成したとして、生活の糧として仕事にすることができる者がどれだけいるか疑問。
- ニーズの把握や将来の進路保障など未知の分野（特に文化芸術）であり、イベントや町おこしの感覚で学科・コースを変え、生徒・保護者が困るような編成はして欲しくない。
- 漫画、アニメで将来生計を立てることは難しいのではないかと感じる。この分野は、情報系の専門教科や総合高校の選択教科などでの対応でよい。

③既存の学科・コース等について

意見全体の傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな学科の検討ではなく既存の学科を充実すべきとの意見が多数 ・総合学科については、存続・廃止の両方の意見があった
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ○総合学科は、設置当初より先細りしている。就職や進学につながらないのでは。日野高校の総合学科を1学級減らして福祉学科を設置してはどうか。 ○目新しいことを不十分な内容で行っても一時の話題づくりに終わるだけ。新たな学科ではなく、既存の学科を充実すべき。 ○平成10年に県下初の総合学科ができて13年が経過。導入の成果は上がったと思うし、第3の学科としての位置づけは定着したと思う。系列の再編等でさらに特色を出せるのではないかと感じる。 ○県教委主導で行ってきたかつての学校再編や学科改編の総括が不十分。学科やコースをいじらず、スタンダードな普通科高校と専門高校へ戻すべき。 ○総合学科はとても魅力的だと思うが、その良さを伝えきれていない。受験生だけでなく、中学1、2年生とその保護者への早めのアピールが必要だと思う。

④地域と連携した教育の推進

意見全体の傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の学校は廃止すべきという意見はなく、むしろ地域や地域の生徒のために、存続すべきとの意見が多数 ・地域活性化を図るためには、学校と地域の連携が必要
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ○日野高校はもっと地域（日野町）と連携していく必要がある。<u>地域をあげて日野高校を応援し、日野高校から地域の人材を輩出するんだという機運が必要</u>。そのためにも日野高校でも起業の学科を取り入れてほしい。 ○岩美（岩美郡）、智頭農林（八頭郡）、日野（日野郡）には、たとえ2学級規模になったとしても、<u>地域活性の観点から、情報発信の拠点、文化教育の中心としての役割を高校が担う意味でも存続が必要</u>。倉吉農業は県下一校の農業高校として充実が必要。 ○地域が超高齢化、超少子化で悩まされ、過疎化に拍車がかかる中、特色ある取り組みを行えばすぐに地域が活性化されるわけではない。従って、<u>中長期的なスパンで地域との連携を考え、取り組みを継続していくことが大切</u>。 ○地域の企業・住民が高校生の学びに関わることによって、<u>社会への興味や進路について幅が広がり深みも出て、地域側も高校生との繋がりができるので大いに進めて欲しい</u>。調整、相互理解を密にして、子ども達に沢山の機会を与えてほしい。 ○無理に地域と連携する必要はなく、<u>様々なことを学校に取り入れれたり、絡めたりせず、落ち着いた各教科を学習することが大切</u>。様々な事業などで行事が入り落ち着かないのではなく、時間割どおりに落ち着いた勉強に迎える環境を保証した方がよい。

⑤その他の意見

特徴的な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の学校は、規模は小さくなくても地域には必要であり、存続を希望 ・基礎学力を身につける教育を望む
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ○定員割れを起こさないためにも、<u>高校の実情、高校の学習内容等をもっと地域住民に定期的にPRしてもらうこと</u>。高校が地域の中にありながら浮き上がってしまっただめだと思う。 ○特色のある学科・コースを設定することは大変よいと思うが、高校を卒業した生徒たちに何を期待するのか。一般的には、普通科の生徒は大学進学、専門高校の生徒はその道で就職することだと思う。<u>特定の分野に偏った教育ではなく、基礎学力をしっかりとつけるべき</u>。 ○高校も少人数学級の導入をしてほしい。子どもたちの個性も多様化する中、以前のような一斉授業では、少子化時代の子供たちには対応できないと思う。<u>学科名をあまり変えず、幅のある名称にして社会的にも定着させ、時代への対応は授業の中身などで対応できないか</u>。 ○15歳で将来の職業を決めることは無理がある。<u>工業や水産、商業などいろいろな科があってもいいが、あくまでも目的はその科の学習内容を通して、人の大切さを学べるものであってほしい</u>。今の時代、企業も高校で学んだことを即使えることを期待していない。むしろ企業も、その会社で必要なことは入ってから教える。もっと別の力を求めていると思う。

3 応募のあった意見を受けての基本方針への反映

- 平成25年度から平成30年度までの具体的な学級減や新たな学科やコースなどの編成にあたっては、地域や学校、保護者等の意見を幅広く聞きながら検討する。
- 中山間地域の学校の魅力や特色づくりについては、地域と十分に連携を図りながら学校の在り方を検討する。

4 今後のスケジュール（予定）

- 4月～6月：基本方針（案）を検討
- 6月：常任委員会で報告
- 7月～8月：定例教育委員会で最終決定

今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針(案)について、ご意見をお寄せください。

1 趣 旨

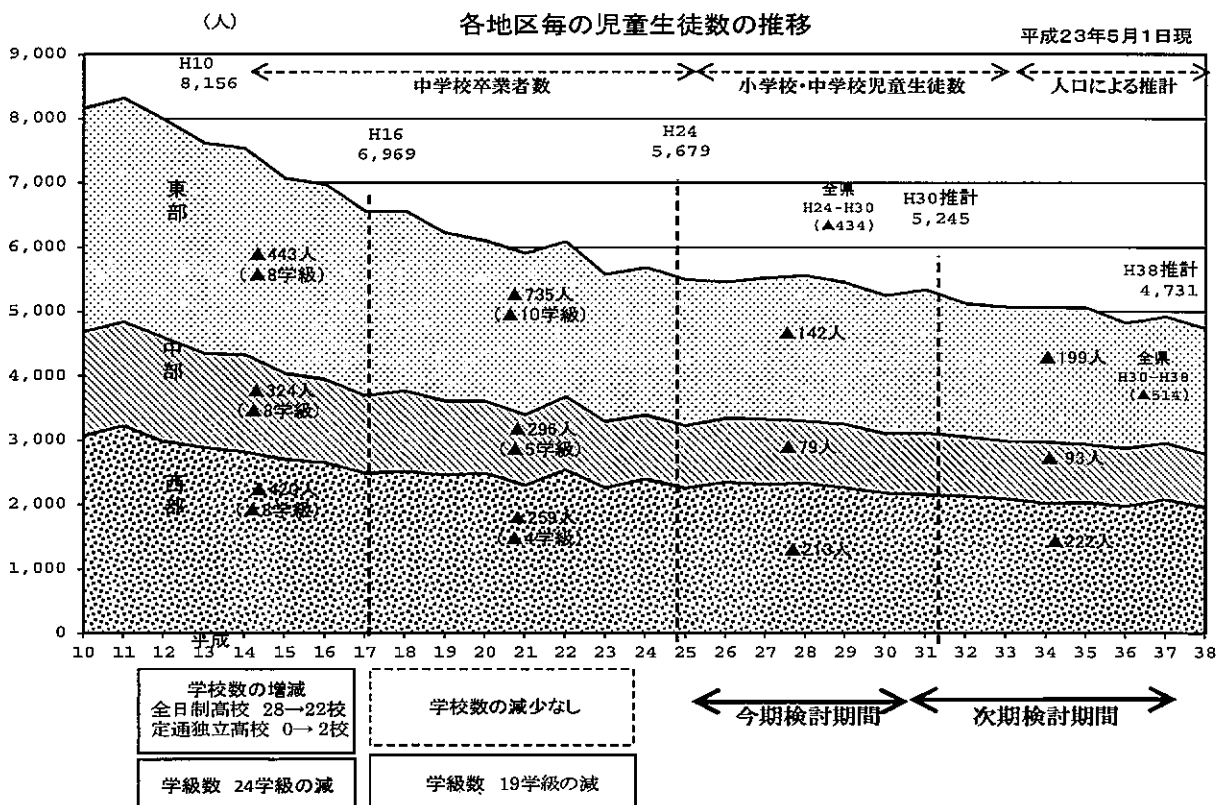
鳥取県教育委員会では、平成12年度以降、大幅な生徒数の減少や社会の変化への対応などを背景として、学校の統廃合や学級減、新しい学科・コースの設置など、大規模な高校教育改革を進めてきました。

しかし、今後も県内の生徒の数が大幅に減っていくことが見込まれています。このような中でも、学校・家庭・地域と連携しながら、魅力のある学校や特色のある教育内容を作り上げていくことが必要です。

鳥取県教育委員会では、今後の県立高等学校の在り方について、学校や関係機関の意見を聞きながら検討を行ってきましたが、このたび、次の①～③の内容を中心に、今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（案）（平成25年度～平成30年度）をまとめましたので、これについて皆様のご意見をお聞かせください。

- ①生徒減への対応 ②特色ある学科・コースの編成 ③地域と連携した教育の推進

◆今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針(案)は、高等学校課のホームページに掲載しています。
 (http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=76399)



2 今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針(案)の概要

① 生徒減への対応

平成30年度までに、県内の中学校卒業生数が400人程度減少することが見込まれています。そこで、県立高校では8学級程度の学級減を行いますが、今の学校数は維持します。

(計画期間中の学級減の予定)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
削減学級数						

▶ 環境エネルギーの分野

鳥取県では、次世代電力供給システム（スマートグリッド）社会の構築など、エネルギーシフトに向けた取組を進めていくこととしています。

スマートグリッドとは、情報技術（IT）を活用して、風力発電など再生可能なエネルギーを含む電力の流れを、供給する側、需要する側の双方からコントロールし、最適な状態を作っていくシステムです。

今後、世界的に推進されていくシステムで、産業界や地域からも大きな期待がかけられており、このような社会に対応できる、電気、制御、工業化学の知識を持った人材を育てるための学科やコースなどを編成します。

▶ 福祉の分野

今後、ますます少子高齢化が進むと予想されています。このような中で、誰もが満足できる生活環境で暮らせる福祉社会の実現が求められています。

そのためには、高校段階で福祉への理解や関心を深めたり、将来の職業として福祉関係の仕事内容を学べるような場が必要となります。

そこで、幼児、老人、障がい者などを対象とする幅広く福祉について学ぶような学科やコースなどを編成します。

▶ 文化芸術の分野

鳥取県には、古くから受け継がれてきた伝統と個性のある芸術や文化があり、また、まんがやアニメーションのメディア芸術など、新しい文化を創造する土壌もあります。

文化や芸術を創造したり、文化芸術活動を支えたり発展させたりする人材を育成するために、まんがを含むメディア芸術などの文化芸術分野を学ぶような学科やコースなどを編成します。

▶ 既存の学科など

総合学科など既存の学科やコースなどについて、その成果や課題の検証を行い、必要な見直しを行っていきます。

② 特色ある学科コースの編成

[全日制高校の規模（平成24年度募集学級数）]

	3学級	4学級	5学級	7学級	8学級	計
普通科	岩美	倉吉西、 鳥取中央育英	倉吉東、境	八頭	鳥取東、鳥取西、 米子東、米子西	10校
専門学科	智頭農林、 倉吉農業	米子南	鳥取商業、鳥取工業、 鳥取湖陵、倉吉総合産業、 米子工業、境港総合技術			9校
総合学科	日野	青谷、米子				3校
計	4校	5校	8校	1校	4校	22校

タイプ	学 科 名
普通科系学科	普通学科、理数学科、理数工学科
専門学科	農業学科、工業学科、商業学科、水産学科、家庭学科、情報学科、福祉学科
その他の学科	総合学科

③
地域と連携
した教育
の推進

本県の中山間地域にある高等学校では、生徒数の減少に伴い、入学者が募集定員を満たしていない学校もあり、このまま学校の小規模化が進めば、将来的に学校の存続が危うくなることも考えられます。

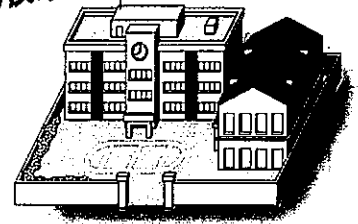
他県では、地域と連携した特色のある取組を行うことで、入学希望者が増え、学校や地域の活性化が図られているような例もあります。

今後も生徒数が減少する中で、地域と連携した特色のある学校づくりを進めるとともに、地元市町村教育委員会と連携した小・中・高一貫教育校の設置や、隣県自治体と連携した新しい運営形態の高等学校づくりなどについても、幅広く検討していきます。

3 募集期限

平成24年3月23日(金)まで

みんなで描こう!!
活力と魅力ある高校未来像!!



4 ご意見の提出方法等

- (1) 応募・問合せ先 鳥取県教育委員会事務局高等学校課 電話:0857-26-7517
- (2) 提出方法 次のいずれかをお願いします。
 ○ 郵 送 : 〒680-8570(住所記載不要、郵便番号のみで届きます。)
 ○ ファクシミリ : 0857-26-0408
 ○ 電子メール : koutougakkou@pref.tottori.jp
 ○ 意見箱への投稿など : 高等学校課、県民課、各総合事務所県民局、県立図書館に設置している意見箱へ投函してください。また、市町村役場の窓口でも応募できます。
- (3) 今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針(案)(平成25年度～平成30年度)の閲覧方法
 高等学校課のホームページに掲載しています。また、県庁県民課、各総合事務所県民局及び県立図書館でも閲覧できます。(http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=76399)
- (4) 結果等の公表 後日、応募いただいたご意見とそれに対する対応方針を公表します。



「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針(案)
(平成25年度～平成30年度)」についてのご意見

《各設問の区分欄の該当する□にチェックしていただき(☑、■など)、その理由・ご意見を記入してください》

① 「生徒減への対応」へのご意見

区 分	<input type="checkbox"/> 賛 成	<input type="checkbox"/> どちらかといえば賛成	<input type="checkbox"/> どちらかといえば反対	<input type="checkbox"/> 反 対
理由・ ご意見				

② 「特色ある学科・コースの編成」へのご意見

【環境エネルギーの分野】

区 分	<input type="checkbox"/> 賛 成	<input type="checkbox"/> どちらかといえば賛成	<input type="checkbox"/> どちらかといえば反対	<input type="checkbox"/> 反 対
理由・ ご意見				

【福祉の分野】

区 分	<input type="checkbox"/> 賛 成	<input type="checkbox"/> どちらかといえば賛成	<input type="checkbox"/> どちらかといえば反対	<input type="checkbox"/> 反 対
理由・ ご意見				

【文化芸術の分野】

区 分	<input type="checkbox"/> 賛 成	<input type="checkbox"/> どちらかといえば賛成	<input type="checkbox"/> どちらかといえば反対	<input type="checkbox"/> 反 対
理由・ ご意見				

【既存の学科など】

--

③ 「地域と連携した教育の推進」へのご意見

--

■ その他、鳥取県の高校教育全般についてご意見があれば、ご自由にお書きください。

※ご意見ありがとうございました。差し支えなければ、下記もご記入をお願いします。

(お住まいの市町村名)		
(年代)	歳代	(性別)